

河邊郡

〔出羽國風土略記五〕田河郡の北にあり、東北は山也、西は海也、南は大河有、兩郡の境也○中郡
中遊佐若瀬平田、三郷有、郡中の大村を酒田といふ、万民出て用を達す、家數六千餘有、

〔郡名考〕出羽 河邊カハハト計カハハ

〔出羽國風土略記八〕河邊郡、小郡也、秋田郡を裂別たる所にや、五國史等に當郡之事跡不詳、延喜式第二十二卷、出羽國上管十一郡之内に河邊と有、平鹿郡南之方より流出る河有、郡の内を流て、北の方秋田領へ流入、郡民河の兩端に居を構たる地成故に、河邊郡といふ成べし、河筋當郡を過ては秋田河といふ、河上は南也、下は秋田也、三代實錄、陽成天皇元慶二年、夷賊討伐之爲に、官兵を下し給ふ條下に、凡秋田、河南、拒賊川北と有、川南は河邊、川北は秋田也、河邊共秋田殿領也、其内龜田殿領一ヶ村有、向野村といふ、龜田領猶田村の下に北山村といふ有、河邊郡に屬す、戸島村新庄領三久保田有、佐竹殿御上下の節、山宿の殿舎有、

〔續日本紀三十六〕寶龜十一年八月乙卯、出羽國鎮狄將軍安倍朝臣家麻呂等言、○中寶龜之初、國司

言、秋田難保、河○河原據一本改、邊易治者、當時之議、依治河邊、然今積以歲月、尙未移徙、以此言之、百姓重

遷明矣、宜存此情、歷問狄俘并百姓等、具言彼此利害、

出羽郡
田川郡

〔出羽國風土略記一〕出羽の號、後に國號と成し以來、出羽郡を田河郡と改稱せしと見へたり、藤島組の内に古郡村といふ有、新郡に對する名にや、此所羽黒山に近し、羽黒は伊氏波の神社也、伊氏波は出羽の万葉書也、此神延喜式に田河郡に屬す、是改稱の證據か、又此邊に越後京田といふ邑在、出羽郡は古へ越後の内なりし故、斯る名も残りしにや、

〔出羽國風土略記二〕田川郡、當時二十二組あり、内五組は御公料也、所謂二十二組は、田川組、京田組、本

郷組、青龍寺組、島組、田澤組、黒川組、由良組、温海組、淀河組、加茂組、横山組、藤島組、添河組、狩河組、清川組、以上、酒井左衛門尉殿領地、松山組、酒井石見守、余目組、上余目組、下余目組、丸岡組、大山組、余目組下五組